



11月8日 皆既月食の直前の月

妙海寺だより

第27号

住職よりご挨拶

新春を迎え 檀信徒各家のご清栄とご多幸を 心よりお祈り申し上げます。

旧年中は妙海寺に対しご厚情を賜り、厚く御礼申し上げます。

「大欲は無欲に似たり」

という吉田兼好さんの言葉はご存知でしょうか？大きな欲を持った人間は、目先の小さな利益にはこだわらないので、はたから見れば無欲に見えるという意味です。

つまり、自分の為だけの欲を煩惱と言ひ、みんなの為の欲は希望とも言えるのではないのでしょうか。

困難の多い世の中で、私たちが幸せに生きて行くためには、自分さえ良ければよいという煩惱を少しでも削り、誰

かの為に大きな欲を持ち生きていくことも必要だと思いません。

新しい年が明けた今、新官区、日本、そして世界がこれから希望を持ち生きて行けるように、今私たちが何をすべきなのか考えたいと思います。

「俺はもう死んでしまおうから、その先のことは知らん」なんて言う方もいますが、私は亡くなるその時まで希望を持ち、それを次の世代に託していくことが、ご自身の命を輝かせてくれる生き方だと思います。私たちが生きる今は、過去から未来へつなぐ大切な一年です。今年も大志を抱き過ぎてまいりたいものです。

私の大好きな中国の古事「愚公移山」を次ページで紹介いたします。

【発行所】

正榮山妙海寺

勝浦市新官174

電話 0470(73)0399

愚公移山

太行山 と 王屋山 は、広さは七〇〇里四

方もあつて、もとは冀州(河北省)の南、河陽(河南省)の北にありました。この2つ山に面したところに住んでいた北山の愚公という老人は、年齢は九十歳近くでしたが、山が邪魔して出かけるたびに遠回りしなければならぬのにうんざりして、家族を集めて言うには、

「私は、お前たちと力をあわせてあの険しい山を平らにして、予州の南まで道を通し、漢水の南まで行けるようにしたいと思うが、どうだろう。彼の家族は口々に賛成しました。

ただ、愚公の妻だけが、「あなたの方の力では、小さな丘でさえも崩すことはできないでしょう。まして、あんな大きな山はなおさらです。それに、崩した土や石をどこに運ぶというのです。」と反対しました。しかし、「それは、渤海の隅(こ)か、隠土(いんど)の北にでも捨てよう。」と答えました。かくして愚公は、息子や孫た

ちを引きつれ、岩石を砕いて、土を掘りかえし、もついで渤海の隅に運びだしました。



愚公の家の隣人で、京城という名前の未亡人にやつと7つか8つになったくらいの子がいましたが、その子も大喜びでこの仕事に参加し、寒暑の季節の変わり目にやつと1往復する有様でした。

黄河のほとりに住む 智叟(ちそう)という老人は、この様子を見て笑い、忠告しました。「あん

たの馬鹿さ加減といったら話にならないよ。古い先短いあなたの力では、山の一角だつて切り崩せないだろうに。」

すると愚公は、ため息をついて言いました。「あなたの頭の固さは、手のつけようがなく、隣の家の方やにも遠く及ばない。良いかね。私が死んでも子供は生き残り、その子供は孫を生み、孫はさらに子供を生んで、子々孫々途絶えることはない。一方、山は増えるわけじゃない。だとすれば、いつか平らになるときが来るだろうよ。」

智叟はこれを聞いて返す言葉もありませんでしたが、この様子を見て恐れた2つの山の神は天帝に報告しました。

天帝は、愚公の真心に感心し、夸娥氏の2人の息子(力持ちの神)に命令して、2つの山をそれぞれ別の場所に移してやったので、それ以来、周囲には小高い丘さえもなくなりました。